



連日、30度超えの暑い日が続きます。各地では、「この時期では最高気温を記録し・・・」というニュースも聞かれます。熱中症対策として、適宜マスクを外したり、こまめな水分補給や休息をとったり、換気をしながら室内温度を適温に保ったりしています。暑くなると冷たいものが欲しくなり、食事がなかなか進まないということもあります。3食の食事と睡眠をしっかりとって、元気に過ごせるようにしましょう。

夏野菜を育てています

各学年とも、プランターや畑に夏野菜を植え、水やりのお世話をしたり、少しずつ大きくなったり色づいたりする生長の様子に気付いたりしています。年少組は、一人一鉢でミニトマト。可愛いトマトができつつあります。年中・年長組は、子ども達とどんな野菜が育てたいか話し合いました。その結果、年中組は一人一鉢にオクラ、プランターにキュウリと小玉スイカ、なすび等を、年長組は畑にカボチャ、枝豆、ピーマン、パプリカ等を育てています。年中組の小玉スイカは、綱に沿って上へ上へと伸び、スイカが実をつけました！「もっと大きくなるかも」「たのしみだね」と毎日眺めています。年長組のカボチャは、過去2年実をつけなかったのに、今年は今のところ2個も実をつけています。「オシベとメシベを結婚させるんだよね」「カボチャさん、できるといいなあ」と待ち望んでいたのも、子ども達は大喜びです。どんな作物も、ほったらかしにしておいては育ちません。毎日水をかけたり、草をとったり、「大きくなってね」と声をかけたり・・・。自分達の野菜を育てる過程でいろいろなことに気づき、一生懸命お世話をして、収穫したものをいただく、というとても素敵な体験を子ども達は今、しています。



「看板も作りました」



「お水を飲んで大きくなーれ」



「かわいらしい実をつけたカボチャ」



「スイカ、大きくなるかな？」

カレーパーティをしました

幼稚園の畑で収穫した玉ねぎとジャガイモを使って、恒例のカレーパーティを7月1日に行いました。感染症対策のため、今年度も調理は職員で行いました。畑でお世話になっている地域の方をお招きし、収穫を喜び合う『始めの会』をしました。カレーライスのペープサートを見たり、たくさんのお話を教わった地域の方にお礼を言った後、お楽しみのカレー会食です。「美味しそう！」「ジャガイモがあった。ぼくがとったのかな？」と、美味しそうにカレーを食べる子ども達の顔はみんな笑顔でした。やはり、自分達で収穫した野菜入りのカレーの味は格別ようです。たくさんおかわりもしましたよ。ちなみに、上で紹介した夏野菜のキュウリが数本収穫できたので、ポテトサラダの具に変身し、みんなのおなかに入りました。



「カレーライスのパネルシアターを見ました」 「カレーライス美味しいね！！」



6月18日の山陰中央新報の『くらし』欄に『子どもにスマホ 影響は』という題で、松江市のぼよぼよクリニック院長の田草さんの話が載っていました。私が印象に残ったのは、スマホ云々ではなく、脳の発達と本物体験のつながりの部分でした。一部を紹介します。

『子どもが幸せな人生を送っていくために必要な力は忍耐力や協調性、創造力、やる気、思いやり、熱意、コミュニケーション力といった「生きる力」だ。それを育むのに大切なのが、脳の中にある「前頭前野」で、思考や心の制御、善悪の判断や集中力、芸術性などに関わる。前頭前野の発達は、3歳を境に穏やかになり、思春期に再び伸びる。脳の情報伝達網を作る神経細胞のつなぎ目「シナプス」の数は、1～5歳がピーク。だからこそ乳幼児期に脳を鍛えることが大切だ。脳を鍛えるのに重要なのは、スマホの動画やゲームではなく「本物の体験」。遊びに集中したり、楽しさを覚えたりするときにドーパミンを分泌し、前頭前野が育つ。生の体験を重ね、大人が子どもの好奇心をくすぐることが大切だ。……』

医学分野の難しいことはわかりませんが、私たちが日々保育の中で大切にしていることが、脳の発達に大いに関係していることは理解できました。幼稚園のこの時期に、それぞれの発達に応じて、『楽しい』『もっとやってみよう』『一緒に考えたり試したりしてみよう』という体験の積み重ねが、脳に良い影響を与え、自分達で遊びを創る楽しさや意欲が、小学校以降の学びにつながっていくことを意識して毎日取り組んでいます。

子ども達の成長ってすごい！！

〇年少りんご組さんが入園して3か月がたちました。4月は、おうちの人と離れるのがさみしくて大泣き。トイレに行くのが怖くて大泣き。自分のリュックサックや帽子などの持ち物の片づけ方がわからなくてほったらかし。『みんなで集う』という意味がわからなくて担任が「りんごさん、お部屋に集まるよ」と呼んでも、園庭で遊び続けたり、友達という存在に親しみがなく「あの子がおもちゃを取った！」「洋服を引っ張った」などトラブルが続出したり・・・。賑やかで、自由気ままに動き回るりんご組さんを見て、内心「いつ頃、落ち着くのかなあ」と思っていました。

それが・・・。いろいろな遊びを体験しながら少しずつ幼稚園の楽しさが分かったり、担任や補助教諭にできない部分を手伝ってもらったりしながら自分のことができるようになってきたり、『みんなで集まると楽しいな』ということを実感したり、友達とぶつかり合いながらも『友達といると楽しいな』という気持ちが芽生えたりして、少しずつクラスでのまとまりができてきました。年中・年長さんの姿を見て、「こんな風にすればいいのかな」と学ぶ場面もありました。

今では、玄関で「行ってきまーす」と元気よく保育室に入ったり、濡れた洋服を自分で着替えたり、クラスで集まって同じ遊びを楽しんだり、話を聞いたり、給食を箸を使って美味しく食べたり、好きな遊びや友達ができて笑顔いっぱい遊んだりする姿が見られるようになりました。子どもたち自身の力もあるけれど、やはり「こんな風に育ってほしいな」という願いをもって、遊んでみたくなるような教材を準備したり、一人一人と丁寧に関わりながら援助したり見守ったりする担任の存在が大きいと感じます。子ども達は、そんな担任と信頼関係を築きながら、生活習慣を身に付けたり、夢中になって遊んだりしていきます。3歳のこの時期、自立に向けての基礎がしっかりできていること、遊びへの意欲が育っていることで、4歳、5歳、そしてその後の学びにつながっていくと思っています。

保護者の皆様の「幼稚園って楽しいよ。いってらっしゃい」と子ども達の背中をトンと押す言葉や、「お帰り。楽しかった？」と精いっぱい活動した子ども達をギュッと受け止めてくださる姿も、子ども達の園での成長を促していると思います。本当にありがとうございます。まだ生まれて3年、4年しかたっていないこの子たちが、園で一生懸命活動していると本当に愛おしさでいっぱいになります。



「行ってきまーす」



「シールを貼ったらカバンをしまっって」



「水遊び用の着替えの準備もできるよ」



「虫探しをしよう。オー！」

〇年中き組さんは生き物大好きですが、昨年一人の子が家庭から持ってきてくれたカブトムシが最近成虫になり、大喜び！カブトムシが自由に飛んで遊べる場を作ろうと、子どもと担任で考え、なんと保育室にテントを張ってカブトムシのおうちを作りました。子どもの「カブトムシさん、狭い所はかわいそう」という気持ちと、子どもの願いをかなえようとテントを準備して奮闘する担任とのコラボで、素敵なカブトムシのおうちができました。

子どもも中に入って遊んだり、「あっ、あそこ隙間があるからカブトムシさん出ちゃうよ」と段ボールやガムテープで修理したりしています。「あのね、オスはカブオくん、メスはカブコちゃん」と名前を付けて親しみ、カブトムシハウスと命名した遊び場で楽しんでいます。そこには、命あるものへの思いや接し方、自分と生き物を重ね合わせてイメージをふくらませて遊んだりする姿や学びがありました。



「あれ、カブオくんかな？」



「カブトムシハウスを修理しよう」

〇年長あお組さんは、風に興味をもって、いろいろな遊びを楽しんできました。その姿を見た担任は、「もっといろいろな体験をして、たくさんの気づきや発見をしてほしい」と願い、十六島の『風車公園』『布施難河下海水浴場』へ4日に園外保育へ出かけました。浜辺では、思い切り走って持っていた袋に風が入るのを楽しんだり、船や貝を見つけたりしました。風車公園では、大きな風車が風で回っている様子を見て「風ってすごいね」「ゴーとか、シューとか、いろんな音が聞こえるね」と、近くで聞くからこそわかるその音の違いに気付いていました。また、遊歩道を上まであがると、大きな風車が目平に見え、止まっていた風車がゆっくり動き出す瞬間も見ることができました。風車のあまりの大きさに「なんか怖いね」「これが風で動くん」と、その迫力に圧倒されていました。本物の風車の迫力や、風の力や畏れのようなものも体感しているように感じました。自然を、五感を使ってしっかりと感じとった園外保育となりました。



「風がいっぱいで気持ちいいねー」「風車って大きいね！音もすごい！」

